午後１時零分再開

○議長（堀尾俊浩君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可いたします。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君）　皆様、こんにちは。質問の許可をいただきました10番の中島秀樹でございます。昼食後の一番眠たいときだと思うんですけれども、どうぞお付き合いいただきますようにお願いいたします。

厳しい自治体間競争の中、私は、朝倉市が生き残るためには変化をしなければならないと思っております。ダーウィンの格言で唯一生き残るのは変化できる者であるという言葉があります。社会の様々な変化、動きを迅速に察知し反応する、これが朝倉市にも必要だと思っております。大きな社会の変化といえば、コロナウイルスの蔓延というのがございまして、多分コロナウイルスが収束しても、世の中の形というのは大きく変わっていると思っております。

また、日本に翻りますと、本日、自民党の総裁選が告示されまして、石破茂元幹事長、菅義偉官房長官、岸田文雄政調会長が立候補されております。14日の両院議員総会で新総裁が決まります。全535票のうち、国会議員票が394票、都道府県の票が141票です。マスコミの見立てであったり、金融市場の見立ては100％菅義偉官房長官が新総裁に選ばれると織り込んでおります。私もそうではないかと思っております。菅義偉官房長官は、横浜市の市議会議員をされた方ですので、市議会議員をされた方が総理大臣になるというのは、我々にとっても大きな励みになると思っております。

ただ一つだけ私は気になっていることがあります。それは、解散総選挙のことでございます。今テレビでは、今月末に解散が行われ、10月の25日に選挙が行われるというふうに言われております。私も解散風が吹いているのかなと思っております。

私は、新しい総裁に、新首相に、世の中のことに耳を澄ませて、伝家の宝刀を抜いていただきたいと思っております。なぜならば、地方はますます元気がなくなっているからです。

新型コロナウイルス感染症の対策はまだまだ道半ばでございます。感染症のほうはまだ落ち着いておりません。経済対策は待ったなしです。コロナ不況の嵐が吹き荒れております。また、台風シーズンが到来しました。また大きな台風が来るかもしれません。そして、我々朝倉市も、経験した大きな災害の復興には地道な努力が必要であり、時間が必要でございます。被災をした多くの地方がたくさんあって、総選挙をしているような、そういった余裕はないんじゃないかと心配しております。

私は、サラリーマン時代に焼き鳥屋でいろいろ会社の文句を言っているときに、「中島、文句があるんだったら、偉くなってから物を言え」と言われておりました。確かに、物事をなすときには権力、力が必要でございます。私も地方議員の端くれでございますので、

政治には力が必要だということはよく分かっております。

しかし、世論のことによく耳を傾けて、新総裁には伝家の宝刀を抜くのは判断をしていただきたいというふうに思っております。追い込まれ解散になったらいけないというお気持ちもよく分かります。数は力でありますので、党勢を確保するというのは大事なことだというふうには思っておりますが、地方議員出身であろう新総裁には、地方のことに耳を傾け、私が就職する頃――今から約30年前なんですが――地方の時代は終わっていないというふうに言われておりました。しかし、地方の時代はいつになってもやってまいりません。

しかし、このコロナウイルスで世の中の形が変わって、地方の時代が来るかもしれないと思っております。今日は、そのコロナウイルス後の新しい地方の形、政策の在り方を質問席より質問させていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（堀尾俊浩君）　10番中島秀樹議員。

○10番（中島秀樹君）　では、通告に従い質問をさせていただきます。

まず最初に、新型コロナウイルスと地方創生についてを質問させていただきます。

私は、コロナウイルスが収束しましても、世の中の仕組みというのが大きく変わりまして、もう元に戻らないのではないかというふうに考えております。コロナウイルス、私も、食事にも行けませんし、旅行にも行けません。生活様式というのは大きく変わってしまいましたけれども、このコロナウイルスを――ピンチをチャンスに変える視点と、収束を見据えた先手を打った政策というのが必要ではないかと思っております。

朝倉市は人口密度が低く、自然環境に恵まれていまして、３密を回避するには適した地域と言えるわけで、中長期的にも経済成長の可能性を秘めているんではないかというふうに考えております。地方創生は新しいフェーズを迎えるんではないかというふうに思っております。

そういった中で、私はこういった話を聞きました。この方はシンガポールに住んでいる方なんですけれども、自分は営業が大好きで、新商品の開発をして、自分が開発をした――これ飲料なんですけども、飲み物を市場に出して、それがどういった飲み方をされているかというお客さんの反応を見るのが非常に楽しみだったと。しかし、コロナウイルスで営業には来ないでくださいと言われて、出歩くことができないと。そして、シンガポールなもんですから、同僚の方がコロナウイルスで亡くなられたそうです。死というものを初めて身近に感じたというようにおっしゃってありました。

私も、コロナウイルス流行し始めのころは自分も死ぬんじゃないかと非常に怖くなりました。私は、これからは、価値観が変わりまして、どんな人生を送りたいか、どんな価値観を重視する人たちにとって住みよい地域なのか、これが大事じゃないかなと思っております。

私は、朝倉市が発展するためには、人口の減少は食い止めないといけないと思っています。できることならば、福岡都市圏に近いですので、増やしたいというふうに思っております。朝倉市の人口を維持するためには、まずは流出を防ぐ、それから、新しい方に入ってきてもらう、この政策が必要だというふうに思っております。

では、まずお尋ねいたします。朝倉市の人口が、私は増えたほうがいいというふうに思っているんですけども、総務部長はどういうふうにお考えでしょうか。現状維持でもいいと思っていますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　昨年、人口ビジョンの時点修正をさせていただきました。国勢調査の数値を踏まえる中で、これから先の人口の考え方というのが一転しました。今年、もう間もなく国勢調査が10月１日を基準日として行われます。市を、行政を、末端行政を運営するに当たりまして特に――失礼しました。歳入と歳出、事業をするに当たりましても、いろんな税収も含め、国からのお金も含め、いろんなことを回す必要がございます。やはり、そこには地域の人口というのが、福岡都市圏については10万人前後の中で推移しておりますが、我が朝倉市におきましては、合併当時は６万2,000人という大きな数字を持っておりました。それが、今は５万3,000人というような形の中で、住基上の中では動いておりますが、基本的にはまだまだ、うちのほうの人口ビジョンから見て、朝倉市にほかの市から通勤している人たち、あるいはそういう人たちを取り入れるためにも、まだまだ人口のほうについては増大という表現は無理かもしれませんが、微増を願っているのが考え方でございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　微増を願っているというふうにおっしゃいました。この微増、少し増える。この増える人はどういう人が増えたらいいと思ってありますか。例えば、朝倉市の人が、例えば結婚されて子どもがたくさん産まれるとかいうような形なのか、それとも、よその地区から来てもらったほうがいいというような形なのか、どういったイメージをなさっているかお尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　考え方とすれば、生産人口というのがよくうたわれております。働く、そして、収入を得て税金を落とすということが基本にあるかと思いますが、子育て世代、やはり、これから子育て世代に脚光を当てながらいろんな施策を打っていくのがまずは肝要かと思っております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　子育て世代という言葉が出ました。私も、朝倉市の人口は現状維持よりは、やはり少し増えていく、そういった形が望ましいと考えております。それはなぜかといいますと、福岡都市圏にも近いですし、非常に交通の便もいいところですので、

そういった形ができるんではないかと思っております。

私は、やはり少しずつ人口が今減っていっていますので、このままでは駄目だというふうに思っております。健全な危機意識がないと私は駄目だと思っています。このままじゃいけませんよと、普通に思える地域がやはり伸びていくというふうに思っております。

では、総務部長は、子育て世代というふうにおっしゃられましたけれども、私は、やっぱりここはターゲットをきちっと明確にして、どういった人に来てもらったらいいのかということを明らかにしていかないといけないと思っております。

先ほども言いましたように、どんな人生を送りたいのか、どんな価値観を重視する人たちにとって、朝倉は住みよい地域なのか、それを考えることが大事だと思っております。

副市長は、朝倉市、来られたばっかりといったら失礼なんですけれども、まだ日が浅うございます。朝倉市にどんな価値観を重視する方が来られると思いますか。朝倉市は、どんな方にとって住みよい地域になると思いますか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　副市長。

○副市長（右田博也君）　私も、朝倉、４月から単身赴任ということで来まして、５カ月ほどたちますけれども、一つはやはり、朝倉市というのが大変自然が豊かというところが一つ印象がありまして、当然そこが朝倉市のよいところだというふうに思っております。

そういった自然を求めて、子育てされる方、子どもにそういういろんな自然に触れて豊かな生活を送ってもらいたいというふうに考えられるファミリー層というところは、朝倉市に来ていただくというのが、朝倉市としてこれを取り込んでいくというところを一つ方向性として持っておくということがよろしいのかなというふうに思っております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　私は、前もちょっとお話をしましたけども、人口が伸びています糸島市、こちらには前の議会で御紹介をしたんですが、岡祐輔さんといいまして、「スーパー公務員直伝！糸島発！公務員のマーケティング力」という本を出されている方がいらっしゃいます。戦略的に糸島市のマーケティングといいますか、発展を図ってある方でいらっしゃいます。その本を読ませていただきまして、やはりこうやってきちっと勉強をしないといけないんだということを思いまして、私もやはりマーケティングをちょっと勉強しないといけないと思いまして、少しいろいろ本を読ませていただいております。それから、セミナーを受けたりさせていただいております。

そういった中で、まずは市場動向、世の中がどうなっているか、これを徹底的にやはり研究しないといけません。世の中がこれからどうなっていく、それから、今どうなっているという、ここを見誤りますと戦略を間違ってしまいます。ですから、まずは世の中がどうなっているか、市場がどうなっているか、そういったことを見ていかなければなりません。

私は、まず地方に移住するときに、問題になっているのは仕事だと思います。仕事の優

位性というのが――失礼しました。地方に、田舎に帰りたいんだけれども仕事がないもんなという意見をよく聞きます。それから、市民の皆様から、企業誘致をしてくださいとよく言われます。仕事というのは、一番のボトルネックだと思います。ただコロナになって、都市部の優位性というのが少しずつ薄れてきていると思います。今はリモートワークで仕事はどこでもできる、そういった時代になりつつあります。

働き方を見直す動きはこれからも続いていくと思います。私は、リモートワークをするためには、ＩＴの環境が朝倉市に整っていないと、リモートワークというのは成り立たないと思っております。まずその素地があるのか、それをお尋ねいたします。例えば、インターネットの光回線の普及率であったりとか、そういった分がどうなっているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　リモートワーク、この新型コロナウイルス禍の中で在宅をしながらいろんな会議、研修、あるいは仕事をするためのＩＣＴ、すなわちＩＴを介した朝倉市の、それが、朝倉市として対応できるのかということと認識をしております。

まず、朝倉市内のこれは光回線、光回線の整備率でございます。並びに利用率を数字的にちょっとお話をさせてください。朝倉市は、平成24年から平成26年までの３カ年をかけまして、光の回線の事業を行っております。既に、サービスが展開されておりました甘木地区を除き、市内全域を網羅する光通信サービス環境構築事業を実施しております。カバー率といいましょうか、カバー率につきましては、おおむね100％を達成しているところでございます。

それから、利用率という、要はどのくらいの方がそれを利用しているのかというところまで質問だったと思いますので、地区別に御紹介をしておきたいと思います。

まず甘木地区、甘木地区の数字は、もともと民間のキャリアが複数ありました関係上、少し申し上げることができませんが、令和２年３月末時点におきまして、朝倉地区47.76％、杷木地区、40.22％、秋月地区、64.36％、高木地区、47.24％ということで、それぞれ整備をしたときの目標、指標を上回る数字の中で、今現在朝倉市内としましてはカバーができておりますし、利用者の方につきましても50％を若干切っておりますが、そういう状況の中で対応しております。ですから、ＩＴの環境というのは、光回線整備がされておりますということで御理解をお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　リモートワークに関しては、ＩＴの環境というのは、朝倉市は私は整っていると思います。ですから、そういったリモートワークをするオフィスというのは、何ももう天神とか東京に設ける必要はありませんので、朝倉市にも来てもらえる可能性があるのではないかと思っております。

次に、地方に住むときの障害としまして教育が挙げられます。特に、地方から都市圏に

若者が引っ越す大きな理由が大学進学です。しかし、最近はこんな話を聞きます。入学をしたけれども、まだ１回もキャンパスに行っていないというような話を聞きます。１カ所に集まって学ぶという、これ以外の選択肢が広がっていると思います。私も、今流行りのズームで授業を受けたことがあるんですけれども、同じ画面の中にアメリカの人がいたりとか、中国の人がいたりとかで、本当に不思議な感じなんですけども、全く違和感もありませんし、セミナーを受けるときに不便も感じません。何回か福岡のほうの、博多の会場に行ってセミナーを受けたことがあるんですけども、今までは何だったんだろうと思うようなことが多々あります。本当に便利だなと思っております。

そして、３つ目が、医療の不便さというのが障害としてはあるそうです。ただ、私は朝倉市は、医療都市久留米にも近いですし、病院も非常にたくさん甘木のまちなかであったりとか――を代表するように、近くに病院がたくさんありまして、アクセスが非常にいいところというふうに聞いておりますので、医療については、朝倉市はあんまり障害がないのかなと思っております。

今述べましたように、コロナ後、朝倉市というのは、３密を避けるとか、それから、自然が豊かであるとか、そういった意味で、住みやすい、それから、選ばれる環境にはあるのかなと思っております。

では、そういった環境の中で、次に、これから、もしくは現在、障害となる要素は何かというのを考えてみたいと思っております。

朝倉市というのは、今言ったように環境的には恵まれているといいますか、適しているわけなんですけれども、でも、そこに何か障害となるものがあるんじゃないか、これをやはり考えて取り除いていかないといけません。私は、ＩＴ環境が整っていないのではないかと思っていましたけれども、そうではないようです。では、障害となるもの、それはどういったものが考えられますでしょうか。総務部長、何が思いつくものがありましたらお尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　先ほどは物理的なＩＴ環境の分の中でということで、実際３密を避け、朝倉市の住みよさというところの中での実際それを実現するに当たっての障害というところの中で、何か障害というのはということでございますが、下手に、我々のほうは福岡都市圏に、先ほど言いますように、交通の便も、そんなに悪くない、あるいは医療関係についても医療都市の久留米に近い、いろんなところの中で、ある程度いい環境の市であるということでございますが、そこが反対に、極端に田舎でもない、極端に都会でもないという、要は選択をするに当たって物すごく地下鉄、電車が通っていまして、10分の距離で中心部に行けるとか、そこまではいかない。しかし、田舎でもない。そういうのの――いい市なんですけど、そこ辺りの最後の選択の部分の中で一条あるのかなというのがあります。これはあくまでも主観でございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今やっています作業といいますのは、ＳＷＯＴ分析という言葉を聞いたことがあると思うんですけれども、Ｓ、ストレングス、強み、Ｗ、ウイークネス、弱み、それから、Ｏがオポチュニティー、機会、そして、Ｔがスレット、脅威です。これを当てはめて考えていくというやり方です。

先ほど仕事の部分であったりとか、要するに人口を伸ばす機会はつくれるのかと、それとか、人口を伸ばす機会となるものはどんなふうなのかというオポチュニティー、Ｏのところを今話をしまして、環境としてはそんなに悪くないんじゃないかなと思います。Ｔのところで、今脅威になるもの、要するに障害となるものは何ですかということ、総務部長のほうにもお尋ねしましたけれども、私は、受入れの体制ができていないんじゃないかと。要する、そういう紹介であったりとか、仮に朝倉市に住みたいと思っても、どこに行っていいか分からないし、そういった足がかりの部分がないんじゃないかというふうに考えていますが、これについてはいかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　午前中の一般質問の中でも、市長のほうからも一部回答がございましたが、移住、もしくは朝倉市のほうに来ていただくというところの考え方でございます。これは、国の事業を活用しながら、令和２年度から東京23区を中心としたところでの朝倉市の移住の、これは福岡県とタイアップしながら朝倉市のほうに来ていただくことに対して支援金をお願いするとか。あるいは、朝倉市独自に、あさ暮らし移住・定住支援金という形で、これは、５年後にそれ相当の支援をしましょうということで、もちろん引っ越しするとき、転入してくるときにも支度金もお支払いしますし、そういうところの中で、制度的にはこういう制度を活用しながら、あるいは住宅のリフォーム関係についても、都市建設部を中心としながら、ここ数年やっているところでございます。移住のほうの窓口といいまして、先ほど午前中の中でもありましたように、基本的には、ふるさと課というところの中で中心でやっておるところでございます。ただし、なかなかそこに実績ということにつきますと、まだまだ厳しいものがあるのかなというのが現実でございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　私が知っている方で、東京の方でそのズームで同じ授業を受けている方なんですけれども、松本のほうに移住をして、今松本のほうでテレワークで働いているという方がいらっしゃったんですけども、何で松本なんですかと。そうしたら、どこでもよかったんだけれども、そういった紹介の窓口があったからということでございました。私は、やっぱりそういったトライアル、いきなり引っ越してくるというのはあり得ませんでしょうから、そういった試しでもいいから住めるような、そういった制度であったりとか、それから、来てくださいというような発信、ここのところが弱いんではないかな

と思っております。やはり、声を上げなければないとの同じというか、存在しないのと同じというような考え方で、やはり手を挙げて、朝倉市ここにありということを政策的にアピールしていかないと目に留まらないんではないか。そして、若い方に来てもらうということができないんではないかなと思っております。どうぞ、そこのところは力を入れていただきたいと思っております。

では、朝倉市は、このコロナの中で環境的には要件は満たしている。だけれども、アピール不足でもあるというところがあるんですけれども、そういった中で、朝倉市の強みです。さっきも言いましたように、どういった人、朝倉市に来てもらうための殺し文句、これって何なんでしょうか。これは、成功の鍵というものがマーケティング上にありまして、これがあるから朝倉市に来るというものが必要なんです。これは何だと思いますか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　朝倉市、人口対策も含めて、成功の鍵というのは、冒頭のほうにもちょっと触れましたけど、やはりこの自然環境のよさ、そして、先ほど私はちょっとギャップしたことを言いましたけど、福岡都市圏のほうにほどよい近さ、そして、医療が充実しています久留米市に近い中での、やはり子育て世代の転入といいましょうか、子育て世代の増をキーワードにしながら、今後展開していく必要があるのではなかろうかと考えております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今総務部長のほうから自然が豊かである、福岡に近い、それから、子育てがしやすいという成功の鍵が出てまいりました。私はそのとおりだと思います。ですから、この成功の鍵を徹底的に伸ばす、そういった私は政策を打つべきだと思っています。これが朝倉市に人口を増やすための成功の鍵だと思います。朝倉市は、子どもにとって、小さなお子さんがいる、小学生、中学生の子どもさんがいる、そういった家庭にとって暮らしやすいまちでしょうか。総務部長、もう一度お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　私も随分前に子育てといいましょうか、実際、親として、この朝倉市、保育から、就学前から中学生までずっと。ここ数年叫ばれていますように、待機児童とか、そういうのも朝倉市の中ではございませんし、やはり子育てについては、いい環境、いい市ということで認識をしておるところでございます。

それから、今般、９月議会の中でも中学生までの入院の、外来の費用とか、あるいはいろんな分が来年から福岡県のほうが制度改正ということでございますが、いち早く朝倉市は、そこ辺りの子どもの医療関係についても、ある程度先駆的な動きもされたこの朝倉市、内容を知れば知るほど、教育の部分もございましょうが、そういったふうな子育てについては、いい市ということで認識をしております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　繰り返しになるんですけども、外部環境、アフターコロナ、ポストコロナ後の朝倉市というのは、外部環境は、私はそんなに悪くないと思っております。そして、子育て、それから、自然が豊かである、福岡に近い、そういった成功の鍵を伸ばしていけばいいと、私はそういうふうに思っております。これが成功の鍵です。

しかし、それがあるべき姿です。自然を満喫する、子育てがしやすい、福岡のアクセスがいい、これがあるべき姿。しかし、マーケティングでは、現状がどうなっているかという、そのギャップを測らないといけません。あるべき姿は、今明らかになりました。でも、私はそこに大きなギャップがあると思っています。

来られたばかりの副市長、朝倉市の成功の鍵、今総務部長がおっしゃっていただいたと思うんですけども、なかなか申し上げづらいというふうには思いますけど、私はあるべき姿に近づく伸びしろというのはまだまだたくさんあるんではないかと思っております。朝倉市として、これからどういうところに力を入れていくべきというふうにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　副市長。

○副市長（右田博也君）　議員が冒頭申されましたけれども、自治体間の競争というところが一つは大きな鍵になるかと思います。一くくりに田舎暮らしと言いましても、いろんな日本全国そういった自治体というのはありますので、その中で朝倉を選んでいただくというために、どういうふうなことをすればよいのかということで、やはりまずは朝倉という地を皆さんに知っていただくというところのＰＲというところ、それから、ＰＲだけではなくて、当然、興味を持ってきていただいた方が、例えばホームページ等で調べてみると、こういうところで相談できるんだなというような窓口があるとか、そういったところの体制づくりというところが必要になってくるかと思います。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今副市長のほうからお話をいただきまして、私もそのとおりだと思います。朝倉市は、３年前に残念ながら災害に遭いました。復興のまだ道半ばでございます。これも、大きな朝倉市の宿題として重くのしかかっております。これも地道にやっていかないといけません。ですけれども、自治体間の競争に勝ち残っていくためには、あるべき姿と現在のギャップというのをやはり埋めないといけないと思います。

なかなか軽々に物が申し上げにくいと思うんですが、市長、今までの議論を聞きまして、市長として朝倉市をどういった形に持っていきたいのか、市長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　災害に遭いました。復旧に全力で取り組んでいます。全力で取り組んでいるということ、復興に向けて、より安全な朝倉にしていくと、なっていくんです

よと。そういったことは一つ大事な、被災をした自治体として必要なことだろうというふうに思います。ピンチをチャンスにと議員がおっしゃいましたように、まさしく一つの、議員がおっしゃるキーワードの一つはそこにあるんだろうというふうに思います。

それから、今質問に対してお答えをさせていただきました。自然環境が豊かでございますので、これを生かして教育環境をより充実させながら、子育てがしやすいと、それから、子どもの医療、それから、予防注射等々、それから、産まれてからのしっかりとした、妊娠から出産まで、そして、育児と、それから、学校といったことをしっかりやってきておりますので、こういったことを一貫して、朝倉市の魅力として発信をし続けるということも必要だろうというふうに思います。それぞれの世代が、安心してやっぱり夢が持てて、そして、他に誇れるようなことを感じていただける、そして、それを外部に発信することができる、そういったことをやっていくと。具体的にはいろいろあろうかと思いますけれども、そういったことを考えています。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　市長がおっしゃられましたように、復興道半ばですけれども、私、朝倉に住んでみませんかというようなことを、ある福岡市内の方に言いましたら、いや朝倉は危ないから住まないよと言われたことがあります。やはり、災害のイメージが非常に強くて、朝倉は危険なところだと勘違いをなさっている方もいらっしゃいます。

そういった意味で、復興を私どもはやり遂げて、逆に安全なんだと。朝倉市は、今までずっと災害が起きていますけども、初期のほうの災害といったら変ですけども、豪雨災害は初めの頃のほうの災害でしたので、その分早く復興も始まっております。そういった意味で、復興をきちっとやり遂げて、朝倉市はピンチをチャンスに変えて、安全都市なんだと。そういったイメージも打っていくというのは大事じゃないかと、そういうふうに思っております。

次に、朝倉は観光が非常に大事な産業だというふうに思っております。コロナによって観光は大きな痛手を受けております。私は、これからの観光は近場の観光がブームになるんではないかというふうに思っております。今までは海外に行っていた方が近場で旅行をするというようなことが始まるんではないかと。コロナ後何をしたいですかと、コロナの感染が落ち着いたら何をしたいですかというアンケート調査の中に、外食、それから、旅行が１番でございます。朝倉市の観光というのは、これから――日帰りが今まで主でございましたので――そこのところは適しているんではないかと思っております。３密を避ける旅行というのに朝倉市は適しているのではないかというように考えております。

例えばバンガローで、朝倉市の自然豊かな山の中のバンガローで、マスクもつけずに大声でしゃべるとか、そういった観光がこれから日の目を見るのではないかと思っております。その点についてはいかがお考えでしょうか。私は、観光、チャンスがあると思っているんですが、いかがお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　バンガロー等で大きな声を出せると。それについてということでございますけども、市にとりましては、今まで、やはり少し田舎ということがデメリットというふうに考えられたところもありますけども、逆に今のコロナ禍の状況では、そこはメリットとして考えることができるようになるかと思っております。また、そういうところで、そういうところの観光分野にも力を入れるべきではないかというふうに考えておりますし、それに伴いまして、一つは、近場、都市圏ということもありますけども、市の観光振興指針、今年の３月に策定させていただいておりますけども、そちらの中でも掲げておりますとおり、新たな客層の取込みと宿泊客の増加を目標としております。これまでは、福岡都市圏から日帰り圏内であるということで、観光客の滞在時間があまり延びないという、地理的なデメリットとして捉えていましたけども、この新型コロナの影響によりまして、かえって福岡都市圏からほどよい近さであるということを生かすチャンスとして捉えておるところでございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　福岡都市圏から観光客を呼び込むためには、具体的にはどういった観光のスタイルといいますか、どういった打ち手をお考えなんでしょうか。もし具体論がありましたらば教えていただきたいと思います。

私は、先ほど言いましたように、借上げ別荘であったりとか、コンドミニアムであったりとか、バーベキューであったりとか、そういったものを打ち出して観光客を呼ぶべきだというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　今考えておりますのは、やはり近場での旅行や少人数の旅行等で、それがやはり取り上げられております。また、福岡県内からの旅行者の方を日帰りではなく、宿泊まで誘導するという、その仕掛けが大切だと思っております。そのため、今はあさくら宿泊助成事業ということで、宿泊者の方に対しまして市のほうから助成をさせていただきまして、そういうもので、こちらのほうに来ていただく方を増やすために、そういう事業を実施しているところでございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今までは、旅行は非日常を味わうためにしていたと思います。日常では体験できない感覚や雰囲気を味わうために旅行に行っていたと思うんですけども、これからは、非日常ではなく――異常の異です――異日常のために旅行に行くんではないかと思っております。今はマスクを必ずしないといけませんので、ストレスいっぱいです。感染症の心配のない、そういった日常を味わう、先ほども言いましたように、マスクをせずに大声を出す、それから、食事をする、家族で食事をする、そういったことが求められるんではないかなと思っております。国内旅行の消費額で、日本人観光客によるものは約

８割というふうに言われておりまして、訪日外国人によるものは約２割だったそうです。ですから、８割の部分はまだまだ国内に残っております。インバウンドと言われておりましたけども、やり方によっては、幾らでもやりようがあると思っております。そういった意味で、先ほど朝倉市のキャンペーンの分があったんですけども、もう少し具体的な、宿に宿泊するだけではなくて、そういった仕掛けが必要ではないかと思うんですけども、いかがでしょう。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　議員が申されますとおり、やはりそういう仕掛けということでございますけども、先ほどから申しておりますとおり、都市圏からほどよい距離であるということの地の利を生かしまして、少し体験メニュー等を今考えているところでございます。そこで、商工観光課のほうでは、朝倉市のグリーンツーリズム協議会や民間団体等と連携しながら、少人数でのニーズを把握するということを目的としましたモニターツアーの実施について検討しているところでございます。これにつきましては、今のところ２つ計画いたしておりまして、１件目につきましては、朝倉市と包括連携協定を提携しております九州電力のほうと邪馬台国をテーマとしましたツアーの造成というのを今計画いたしております。これは、市内の歴史遺産を巡る１泊２日の行程で、実施人数については、やはり少人数ということで、１回当たり10人から20人程度を予定いたしております。これにつきましては、まず取りかかりとしまして、九電グループ内の社員向けに今現在募集を開始しておりまして、10月から１月までの間で、今のところ４回実施する予定であります。

もう一件につきましては、平成30年度からあさくら祭りのネギ投げ大会、これにつきまして、タイのアユタヤ市でのＰＲイベントなど連携して事業を行っております日本航空との事業となります。これは、サムライ文化をテーマとしまして、秋月での宿泊体験を行うモニターツアーでございます。対象は、国内在住の、こちらにつきましては外国人の方を１グループ当たり２名から４名の予定で１泊２日で秋月らしい体験を提供しようというものでございます。これにつきましては、２件とも、いずれも準備中でありまして、コロナの影響次第では実施が不透明な部分もございますけども、民間のほうとも連携をとりながら、コロナ禍でも行えるものを模索しているところでございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　今の、すみません、２つ御紹介いただいたのを私初めて聞いたんですけど、その中で、外国人向けの、インバウンド向けの分があるということなんですか。そこの部分はちょっと今の時代とは合わなくて、修正したほうがいいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　農林商工部長。

○農林商工部長（石橋一良君）　この外国人向けというのは、サムライ文化をテーマとし

て体験していただいて、外国の方がどう体験していただくか。もう一つには、県内の在住されてあります外国人の方については、少しデータ古いんですけども、平成28年のデータですけども、県内在住は一応6.5万人ほどいらっしゃいますし、また、県内在住の留学生の方、この留学生の方についても１万5,000人ほどいらっしゃいます。そうすると、また、福岡市内に在住の外国人の方、３万8,000人ほど在住の外国人の方いらっしゃいまして、やはり、海外からのインバウンド招致、そちらについては今厳しい状況ですけども、逆に、今現在、近圏にいらっしゃる外国人の方にこの朝倉のよさというのを知っていただくというのも一つの手法かなと思っております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　先ほどから、私は朝倉市の人口を増やすためにどうしたらいいのかということで、観光というのは、朝倉市に接していただく有効なツールでございますので、入り口の部分としていいのかなというふうに思っております。アーリーアダプターといいまして、最初新製品が出ましたら、すぐ飛びついて買う層の方がいらっしゃいます。流行り出して買う方がいらっしゃいます。その一番最初の方というのはアーリーアダプターと言うんですけども、こういった方たちを捉えるのには、観光というのは私はいいんじゃないかなと思っております。

ただ、これから人口を増やしていくため、関係人口を増やすためには、最終的にはやっぱり朝倉を好きになっていただかないといけないと思っております。観光に１回来ただけでは、やはり朝倉に住もうとか、朝倉に移住しようというふうにはならないと思っておりますので、継続的な朝倉との接点をつくって、少しずつ朝倉に近づいてもらう戦略も必要だと思っております。

そういった、朝倉と継続的に接点を持つ、こういった機会、例えば、どこかのお祭りでも結構ですし、そういったものというのは朝倉にありますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　朝倉と接点を持つ、恐らく昨年あたりから、この地方創生の関係で、関係人口というキーワードが発せられておりますので、その関係人口の創出ということで、それぞれの朝倉市、奇祭もございます。ただ、コロナ禍の中で、ある程度自粛した部分もございますが、それぞれの地域が持つ資源の掘り起こし、活用にいたしまして、それが、そういったふうな関係人口の創出というところのほうに結びつくというところの認識に立っております。ですから、実際、観光面で事業に展開しております商工観光課、農林商工部と、また、全庁的な部分もございますので、総合政策課の中の企画部門もございますので、いろんなところの中で、その地域のよさ、そして、関係人口の創出というところが、今後大事な引き続きのキーワードだということで認識をしているところでございます。以上です。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　よく博多祇園山笠で、私は毎年ヤマを担いでいるとかいって、そこのお祭りに参加しているような福岡市外の方とかもいらっしゃいますので、そういった定期的に朝倉と関わって、ファンになって、時間をかけて近づいていってもらう、そういった仕組みというのも必要ですので、私はそういったのは、地域の行事の中にあるのではないかと思っておりますので、そういったものを大事にしていただきたいというふうに思っております。

すみません、時間がもうなくなってしまいました。私は、朝倉市の人口をこれから増やしたほうがいいというふうに思っています。このままではいけないというように思っております。そのためには、朝倉市に来てもらうための成功の鍵というのが出ました。これと、今、私はやっぱりまだギャップがあると思うんです。そのギャップを埋めていく必要がこれからあるというふうに思っております。朝倉市のビジョンというのが、水を育み、まちを潤す環境健康都市だったというふうに思うんですが、総務部長、間違いないでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君）　総務部長。

○総務部長（石井清治君）　健康文化都市の創造は、第１次の中での総合計画の中の基本理念ということで認識をしておりまして、昨年、2019年度に改定をした分で、「人、自然、歴史が織りなす　水ひかる　朝倉」を今の基本構想として立ち上げております。

○議長（堀尾俊浩君）　10番。

○10番（中島秀樹君）　失礼いたしました。勉強不足でした。

そのやっぱりビジョンを具現化していかないといけないと思っておりますので、そのビジョンをやはり徹底いたしまして、朝倉市にたくさん人が来てもらうような、そういった将来戦略を描くべきだと、私は考えております。

今、コロナの時代になりまして、朝倉市にはチャンスが回ってきていると思っております。この社会全体ではピンチになるんですけれども、朝倉市にとってはチャンスと思って、それを生かしていただきたいというふうに思っております。

すみません。教育問題につきましては、１番目の質問が長引いてしまいましたので、次の議会で質問させていただきたいと思っております。どうぞお許しください。

以上で私の質問を終わります。

○議長（堀尾俊浩君）　10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後２時10分に再開いたします。

午後１時59分休憩